

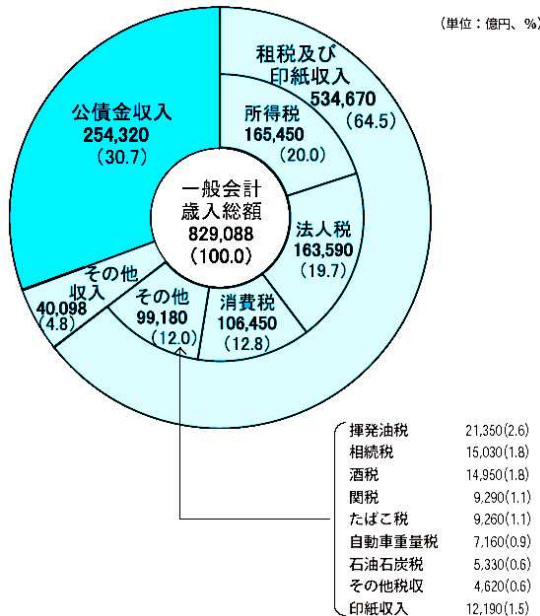


いつもお世話になっております。今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収下さいませようお願い申し上げます。

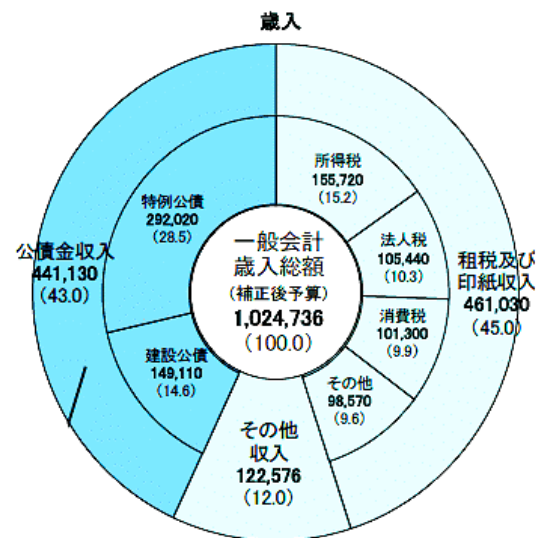
## 日本の資金繰りが大変なことになってます。

毎年、一般会計の歳入・歳出予算が新聞・テレビで報道されています。平成19年度の一般会計予算の歳入と平成21年度の補正予算後の歳入を比較してみました。

平成19年度の収入の予算



平成21年度の収入の予算



### 1、日本の借金は800兆円 825兆円！に増加

2年前、国と地方を合わせた長期債務(借金)は800兆円を超えてと言われていました。これは計算上、(税収)年収530万円のサラリーマンAさんが8,000万円の借金を抱えていることになっていました。21年度ではAさんの給与は460万円に下がり、借金が8,250万円に増えてしまいました。上のグラフで見ても所得税・法人税・消費税の収入のすべてが激減しています。

### 2、日本の借金はなくなるのでしょうか？

2年前、国民の金融資産は、1200~1400兆円とうわさされてきました。しかし金融危機の影響で今では1100兆円程と言われていました。外国から多額にお金を借りているわけではないので、825兆円の借金を国民の1100兆円の資産と相殺すればあつという間に国の借金は、減ってしまいます。(恐ろしい話ですが...) この相殺の方法として、いざとなったら増税とインフレが手っ取り早いと国が考えていると思うのは、私だけではないと思います。

### 3、日本の国債は誰が買うのでしょうか？

年間44兆円もの国債を誰が買うのでしょうか？我々一般庶民は国債なんてなかなか買えません、しかし銀行預金は子供でも持っています。銀行さん(金融機関等)に預けた預金の一部が国債になっています。また外人が7%程買っています。反対に日本もアメリカの国債を60兆円以上買っていると言われていました。

### 4、日本の国債を誰も買わなくなったらどうなるのでしょうか？

国民の金融資産がどんどん目減りし、いずれ国債が買えないことになるのではないのでしょうか？今はまだ国債残825兆円に対し国民の資産1100兆円の方が多くなっています。しかしこのまま10年もすると逆転してしまう可能性もあります。国債を買ってもらうためには金利を上げて、国民や外国人に買ってもらうことになると思います。しかし金利を上げれば国債金利の支払いの負担が大きくなります。また民間の経済投資にも打撃を与えてしまうことになります。そうすると過去の例からも日銀が国債を買い続けることになり。買い入れ額が大きくなりすぎると、国が紙幣をばら撒くように、やがて金利が上がり、いきなりデフレからインフレに変わり、国の借金は減っていく...(恐ろしい話です...)

### 5、資産を減らさず生き延びるには

デフレからインフレになれば、借金は目減り？します、不動産・株式・金等は上がります。契約済みの保険は上がりません、給与等の収入や会社の売上は増加します。預金・借入金利は上昇します。いつの時点でインフレになったり金利が上昇したり株価が上がったりするかは誰にもわかりません。

**無理のない借入、投資は不動産・預金・有価証券に3分割し、バランスよく、これが健全なライフプランでしょうか...**